

新聞まざひこ

主な実績

私がずっと目指してきたのは安全な町づくり。福岡県の皆さんが毎日安心して暮らせるよう、不安のない将来を描けるように、と力を注いできました。これからもやっぱり「現場主義」。みなさんのまわりで現実起こっていることに耳を傾けて、課題に粘り強く取り組んでいきます。



「駐車場の確保は大変やし、書類も多いし、ガソリン代や自動車税もかかる。ボランティアやけど結構大変。なんとかしてよ」といわれました。

地域の安全を見守る青パトは防犯対策に力を発揮しています。しかし青パトには活動を妨げる制約がいろいろとありました。そこで私は公明党の国、県、市議と連携し、平成19年3月、21年3月、12月と3回に渡り、議会で提案。結果、左記のように改善されました。

青パトの皆さんを支援

- 車庫登録は県内市町村の小中学校で可能に
- 道路使用許可(毎月)、設備外積載許可(3ヶ月)を1年に1度でOK
- 自動車税・軽自動車税を免除
- 県が青パトを立ち上げる際に10万円を上限に助成する
- 福岡市が車検時に10万円を限度に助成する

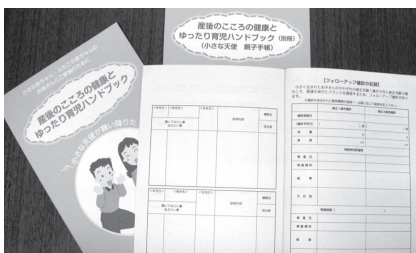


『小さな天使親子手帳』ができました

「母子手帳には1500g未満の子の成長記録欄がないんですよ。小さく生まれた赤ちゃんをお持ちのお母さん方から声が届きました。

体重1500g未満で生まれてくる赤ちゃんは極(超)低出生体重児と呼ばれています。お母さんは成長記録を書き留めたくても、従来の母子手帳では極低出生体重児の成長曲線のグラフ等がなく、お母さん達は子どもの成長に対して、不安な日々を送っていました。

議会質問から2年後不安を解消する『小さな天使 親子手帳』



ジェネリック薬品の利用を促進

「医療費が高い。せめて毎月の薬代だけでも安くならないだろうか」との高齢者の方々からの悲痛な声に対して。

ジェネリック薬品(後発医薬品)をより使えるように働きかけました。県と医師会、薬剤師会、卸売業者が連携し、現在では全国トップの使用率に。患者の負担が軽くなったと同時に、県の負担も軽減されています。



#8000が夜中でも携帯電話でも可能に

「子どもの急な病気は時間に関係なく起きるもの。夜中に相談できるところがあると安心なのに…」とお父さん、お母さんの声に。

子どもの病気の相談窓口、緊急電話相談#8000。小児科医師や看護師へ直接相談ができますが、利用時間帯の制限がありました。平成19年にこの件を提案。県では21年6月から携帯電話からも利用可能になりました。

(午後七時～午前七時 病院が閉じている間の時間をカバーしました)

